

「日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)」は、河川・流域再生に関わる事例・経験・活動・人材等を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい水辺再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的として、2006年11月に(財)リバーフロント整備センターが設立した団体です。また、「アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)」の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、同時に、アジアの素晴らしい取組みを日本国内に還元する役割も担います。

目次	Pages
➤ JRRN 活動報告.....	1
➤ 会員寄稿記事.....	5
➤ 研究・事例紹介.....	7
➤ 会議・イベント案内.....	9
➤ 冊子・ビデオ等の紹介.....	9
➤ 会員募集中.....	10

巻頭書記

3月11日に発生した「東北地方太平洋沖地震」に被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、被災地において救助活動に従事されている皆様に尊敬と感謝の意を表するとともに、一人でも多くの命が救われ、少しでも早く笑顔が戻るよう心よりお祈り申し上げます。

筆者は、東北の大学を卒業しており、被害が大きい地域に住む友人が多くいました。幸いにも、地震発生から数日たって全ての友人と連絡を取ることができま

した。これまで感じたことのない感情を知りました。

JRRN事務局が配信するこのニューズレターやニューズメールを受信できない方が多くいるかもしれませんが、事務局のできることとして、被災地などでの通信の妨げにならない程度で、これからも情報を配信していきます。

本号でも『桜のある水辺風景2011』写真募集のご案内をしておりますが、可能な範囲で構いませんので、御協力いただける方のご応募をお待ちしております。

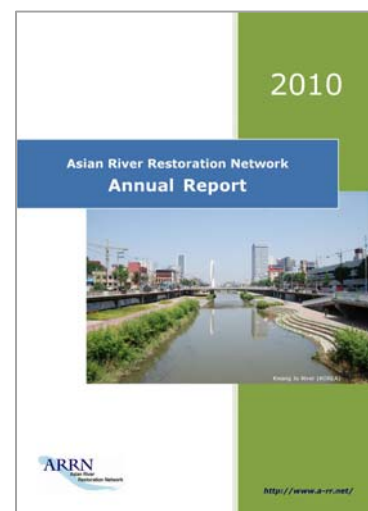
JRRN 活動報告(1)

『ARRN 年次報告2010』(英語版)が完成しました

ARRN(アジア河川・流域再生ネットワーク)の設立4年目(2010年)の活動報告を取りまとめた「ARRN年次報告2010(ARRN Annual Report 2010)」(英語版)が完成し、ARRNホームページ上に公開致しました。

http://www.a-rr.net/publication/annual_report/

本報告書では、ARRNの活動報告に加え、ARRNを構成する日中韓の各国内ネットワークの年次報告も掲載しています。本年次報告を通じ、ARRNの2010年度の歩みをご覧頂ければ幸いです。



ARRN年次報告2010(英語版)

(JRRN事務局 後藤勝洋)

JRRN 活動報告(2)

JRRN 会員アンケート集計結果と今後の対応について

JRRNの更なる活性化を目的に実施させて頂きました「JRRN会員向けアンケート調査」(約500名送付)に対し、108名の方々よりご回答を頂きました。

- 実施期間： 2011年2月10日(木)～2月21日(月)
- 対象者： JRRN会員(個人・団体)
- 回答者数： 108名

アンケート集計結果、各自由記述欄で頂いたすべてのご意見、主なご質問やご要望に対するJRRN事務局の回答、及び今回のアンケートを受けての今後のJRRN活動への反映方針について、以下のレポートで整理しておりますので、ご覧頂ければ幸いです。

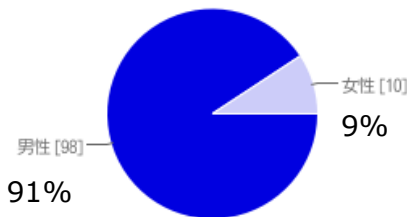
URL: http://www.a-rr.net/ip/info/letter/docs/JRRNreply_to_questionnaire.pdf

以下では、アンケート集計結果及び今後の取組等について、概要をご報告させて頂きます。

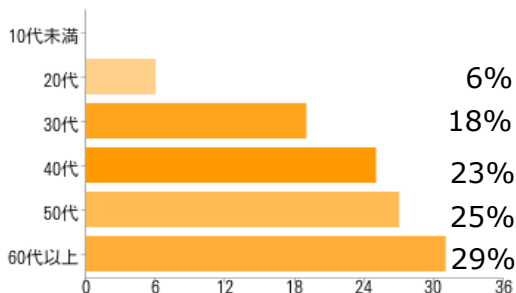
1. 集計結果

【1】回答者の属性及び関心について

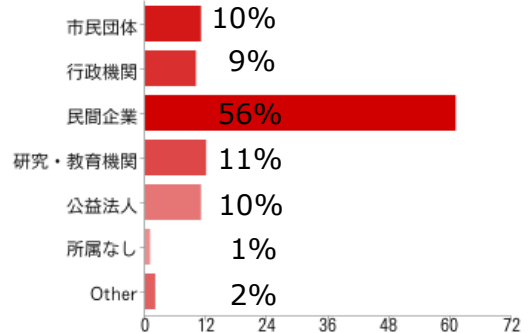
Q1: 性別



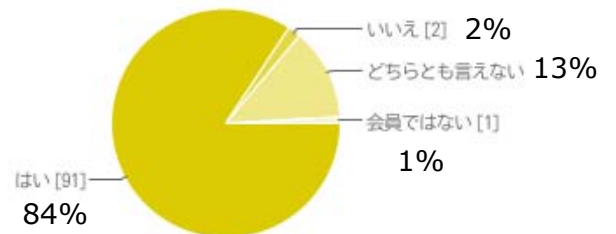
Q2: 年齢構成



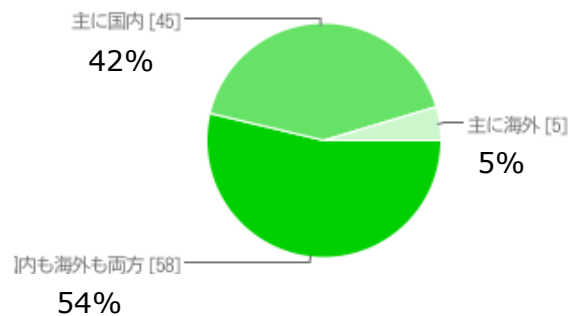
Q3: 所属



Q4: 会員になって役立ったことはありますか?

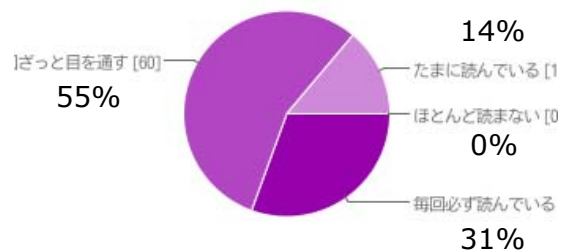


Q5: 国内情報と海外情報のどちらに関心がありますか?



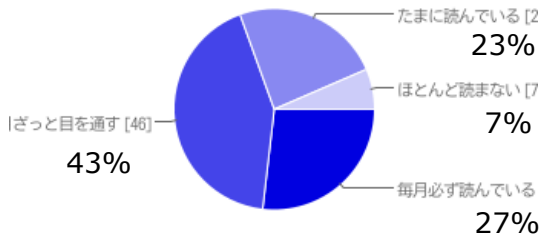
【2】JRRNニュースメールについて(週二回配信)

Q6: ニュースメールはご覧になっていますか?



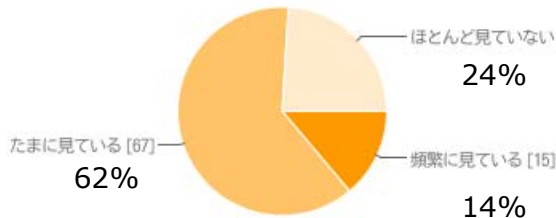
【3】 JRRNニュースレターについて（毎月発行）

Q8: ニュースレターはご覧になっていますか？

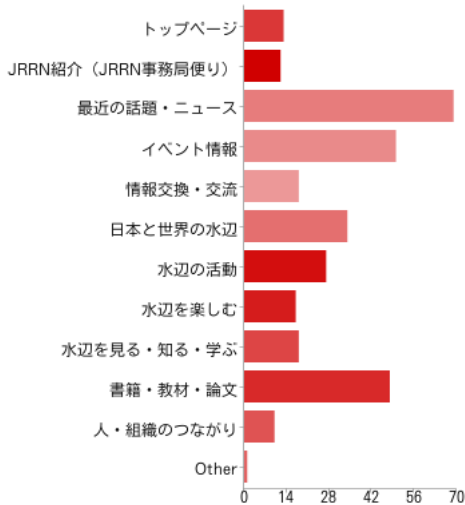


【4】 JRRN ホームページについて（週二回程度更新）

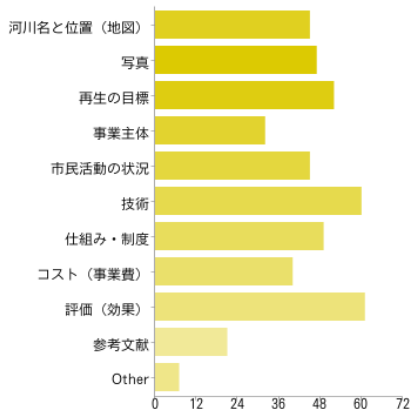
Q10: JRRN ホームページはご覧になっていますか？



Q11: ホームページで役立っているページは？

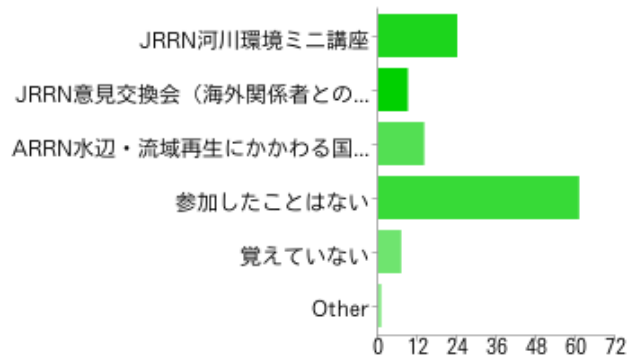


Q12: 河川再生事例から知りたい情報は？

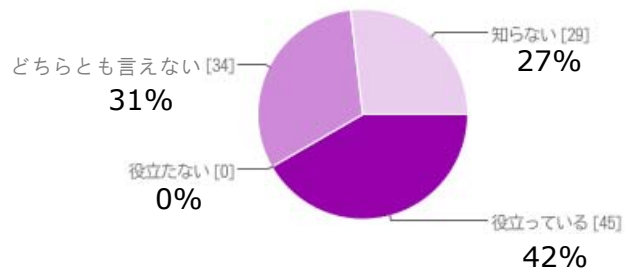


【5】 JRRN 主催行事について（不定期開催）

Q14: JRRN行事に参加したことありますか？

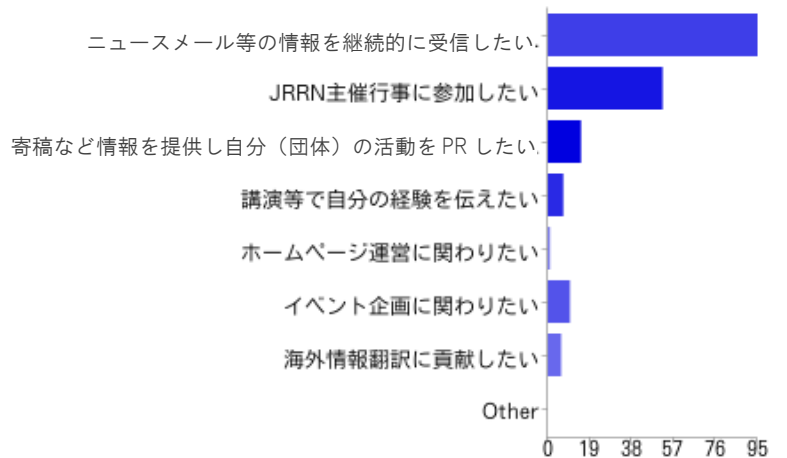


Q15: 行事講演録は役立ちますか？



【6】 JRRN 活動への参加、その他全般について

Q17: JRRN との関わり方に関する希望は？



2. 自由記述で頂いた主なご意見

アンケート内の自由記述欄で頂きました主なご意見を以下にご紹介させていただきます。各ご意見に対する回答は、以下の詳細資料内で整理してあります。

URL: http://www.a-rr.net/jp/info/letter/docs/JRRNreply_to_questionnaire.pdf

【1】JRRN ニュースメール

(1)配信頻度について

週 1 回程度が望ましい(週 2 回希望: 7 件、週 1 回希望: 6 件)

(2)掲載情報(テーマ)について

官公庁の記者発表、専門雑誌特集、雑誌等で得られない情報、各種データベース、アジアと欧米の再生事例、市民団体の取組み、イベント、助成金等の情報も紹介して欲しい。

【2】JRRN ニューズレター

(1)掲載情報(テーマ)について

企画(連載)もの、リレー形式での寄稿(河川管理者・NPO・コンサルタント等)、海外に関する事例・河川水環境事情・川と人の関わり等の紹介を希望する。

【3】JRRN ホームページ

(1)掲載情報(テーマ)について

河川再生に関わる論文・ニュース・事例分析結果・自然再生協議会関連情報・川が身近になる情報・学習教材等々を紹介して欲しい。

(2)機能の充実について

会員相互交流機能(例 BBS)を充実させて欲しい。また必要な情報へのアクセス性を高めて欲しい。

【4】JRRN 行事開催

(1)講演テーマについて

現場の生の声(河川管理者・市民団体・コンサルタント等)を聞きたい。非専門家でも理解できる市民団体向けの講演を希望したい。再生後(整備後)の取り組みや評価の話を知りたい。海外技術者と歩きたい。等

(2)開催手法(運営面)について

定期行事にして欲しい。開催案内を早く教えて欲しい。会員を講師としたらどうか。地方でも開催して欲しい。週末に開催して欲しい。ビデオ公開して欲しい。等

【5】JRRN 活動への参加、その他全般

(1)JRRN 活動への参加について

会員の顔や声が見える、届く工夫が欲しい。また既存関係団体や教育活動との連携を図るべき。

(2)新企画等について

Google などの情報技術を活用した斬新的な取組みを期待したい。環境教育との連携を期待したい。日本の知見を海外にPRする機会を増やして欲しい。等

(3)JRRN 運営の透明性確保について

JRRN の運営実態がよくわからない。ホームページ掲載情報(書籍等)の選定基準を知りたい。等

3. 今後の JRRN 活動への反映

今回のアンケート結果を踏まえ、平成23年度は以下の様に取り組んでいく所存です。

【1】JRRN ニュースメール

- ✓ 引き続き、週二回配信(月・木)を目標に、JRRN 活動及び河川再生分野の最新情報源としての機能を目指しますが、月曜と木曜で扱うテーマを変化させるなど、新鮮味を感じる工夫をします。
- ✓ 官公庁ニュースなど、可能な限り、関連分野の新規情報を追加していきます。

【2】JRRN ニューズレター

- ✓ 河川再生に関わるテーマ性を持たせた連載企画を検討し、試行していきます。
- ✓ JRRN 会員皆様が保有する知見や活動実績を容易に紹介できる仕掛けを検討し、試行していきます。

【3】JRRN ホームページ

- ✓ 河川再生事例や関連書籍等の情報量の充実をこれまで以上に図り、河川再生情報源として価値を高めます。
- ✓ 必要な情報へと容易にアクセスができ(ユーザーフレンドリー)、また会員との双方向のやり取りが可能なホームページに再構築します。

【4】JRRN 行事開催

- ✓ テーマや講師を含め、会員のニーズに即した企画を更に検討し、類似団体主催行事との差別化を図った行事開催に努めます。特に講師を JRRN 会員に担って頂ける工夫をしていきます。
- ✓ 開催行事のネット中継や(期間限定)ビデオ映像公開等について可能性を検討し、東京以外の方々も、また平日に参加が難しい方々も行事に参加頂ける工夫をしていきます。

【5】JRRN 活動への参加、その他全般

- ✓ 会員皆様からの情報が循環するための仕組み構築を目指し、その機会やツールを増やしていきます。
- ✓ 事務局体制や資金計画、また(個人情報を除く)会員構成等、可能な限り情報を公開することに努め、JRRN 活動の透明性を高めていきます。
- ✓ 様々なセクターの方々に参加頂けるよう、市民団体や行政関係者にも積極的にPRを実施致します。
- ✓ 引き続き、国内・海外それぞれに偏ることなく、有益な情報発信に努めます。

この度は、お忙しい中、アンケートにご協力頂きまして誠にありがとうございました。皆様からの貴重なご意見を今後の活動に反映しながら、各地域に相応しい河川・流域再生の技術や仕組みづくりの発展に会員皆様とともに貢献していきたいと思っております。

(JRRN 事務局 和田彰)

JRRN 活動報告(3)



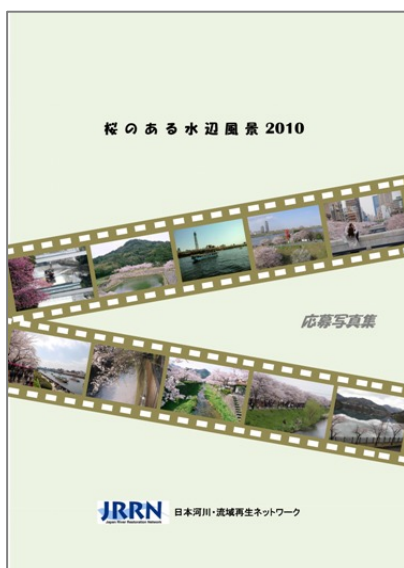
『桜のある水辺風景 2011』写真募集のご案内

JRRNでは、「桜のある水辺風景」の写真を募集いたします。

昨年、一年のうち春だけにしか見られない水辺風景の写真を会員のみなさまからいただき、「桜のある水辺風景2010」と題し、ホームページで公開しました。写真のタイトルと簡単なコメントが添えられた、春のにおいがあふれる23枚の写真が納められています。今、初めて耳にされた方は、下記のURLにアクセスしてみてください。

今年の桜の開花予想を見ると、沖縄では2月初めに満開を終えてしまっていますが、3月末から九州へと北上し、5月に北海道へ桜前線が到達することが予想されています。その地域だけの風景がきっとあると思います。

「桜のある水辺風景」写真が、さらに多くの方々の水辺への関心が高まるきっかけになることを期待し、全国各地の会員の方々からの「桜のある水辺風景」をお待ちしています。今年、どの水辺のどのような写真が届けられるのでしょうか。



◆ 『桜のある水辺風景2010』ダウンロード

<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/publication/2192.html>

応募概要

- テーマ：「桜のある水辺風景 2011」
 - ・ 2011年に撮影された写真であること
- 応募資格：JRRN 会員または会員登録予定の方
- 作品規定：
 - ・ 応募はお一人何点でも可
 - ・ 応募作品は自ら撮影したもの
- 応募方法：
「**応募シート**」に必要事項を記載し、送付してください。
- 応募期間：
平成23年3月1日(火)～平成23年5月31日(火)
- 応募作品の取扱いについて：
 - ・ 応募期間終了後に、JRRN ニュースレターや「応募写真集」上にてご紹介させていただきます。
- 詳しい情報や応募シートはこちらから

<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/information/2587.html>



(JRRN 事務局 沼田彩友美)

水辺からのメッセージ No.23

国土文化研究所 主任研究員 岡村幸二 (JRRN 会員)

桜・菜の花・春がすみ：
由布岳を背景とした別府川沿いには、のどかな春景色が満ち溢れています



撮影：2007年4月（大分県由布市）

- ◆湯布院の観光入れ込み客数はこの20年近く年間400万人を維持しています。湯布院駅からまっすぐと続く“目抜き通り”の賑わいは渋谷・原宿を思わせます。のぼり旗が目立つ安っばい街並み越しの由布岳の景観は、訪れた人の目にはどう映るでしょうか。
- ◆本多静六博士が80年前に地元の小学校で開いた講演会で、まちづくりや公園づくりの基本的な考え方を述べたといいます。「いつも清浄な空気を呼吸していること」「十分な日光にあたること」「いつも新鮮な食物をおいしく食べること」の3点をまず心がけるべきだと説いています。（観光まちづくり：西村幸夫編著・学芸出版社）

※国土文化研究所は、株式会社建設技術研究所のシンクタンク組織です。

■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。（JRRN 事務局）

研究・事例紹介(1)

JRRN 編集『よみがえる川 ～日本と世界の河川再生事例集～』のご紹介

JRRN 事務局では、「よみがえる川～日本と世界の河川再生事例集」と題し、これまで収集した河川再生に関わる事例を事例集として発行する準備を行っています。

JRRN では、下記の主な活動目的のもと、国内外の河川再生事例を収集してきました。

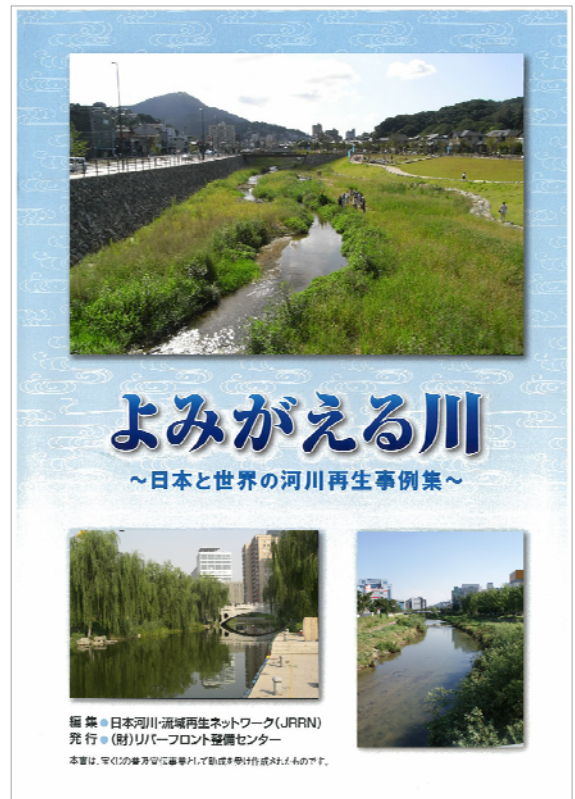
- ① 国内外の河川再生に関わる技術・事例・経験・活動・人材などを交換・共有することを通じ、日本国内の各地域に相応しい水辺再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与する。
- ② 日本の優れた河川再生の技術・知見をアジア地域に向け発信する。また、同時にアジアや欧米の適用可能な取り組みを日本国内に還元する。

日本の事例については、現時点で保有している公開情報を事務局で整理したものを事例として記載しました。また、日本語での情報が少ない海外の河川再生事例については、代表的な事例に焦点を当て紹介しております。アジアの事例は、アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)を通して収集しました。

これまで収集した全事例数は、国内事例が約 230 事例、海外事例が約 100 事例です。そのうち、国内 24 事例と海外 34 事例を抽出し、事例の概要を文章と写真で紹介しています。また、過去の JRRN ニューズレターにおける奇稿記事のうち、河川再生に関わる記事を「現場からの報告編」として掲載いたしました。

本事例集は、JRRN の活動成果として会員の皆様にご覧頂ければ幸いです。また、この事例集を通して、「河川再生」という取り組みにさらに興味を持っていただくとともに、この河川を見に行ってみたい、もっと知ってみたいという次の行動へと後押しするきっかけとなることを願っています。

完成後、改めて会員皆様にお知らせすると共に、ホームページ上にて電子データ公開も予定しております。



表紙イメージ

目次	
はじめに	3
河川再生事例マップ	4
● 河川再生とは	8
● 国内事例編	11
● 海外事例編	53
●● 現地からの報告編	91
【国内からの報告】	92
【海外からの報告】	120
●●● 事例リスト	135
【国内事例】	135
【海外事例】	158
●●●● ARR/JRRN	164

目次(案)

(JRRN 事務局 沼田彩友美)

研究・事例紹介(2)

「国内における河川・流域再生に関わる既存技術指針類一覧表」(2011年3月版)のご紹介

河川・流域再生に関わる国内における既存技術指針類一覧表(2010年3月版)を作成しましたので、その作成目的や今後の活用方針をご紹介させていただきます。

現在 JRRN が事務局を担う ARRN (アジア河川・流域再生ネットワーク) では、アジア・モンスーン地域に相応しい河川再生の方法論の確立を目的に(「第4回世界水フォーラム」分科会の提言に基づく)、ARRN が保有するネットワークを活用しながら『アジアにおける河川・流域再生ガイドライン(技術指針)』の作成及び更新を継続的に取り組んでいます。その入門編として『アジアに適応した河川環境再生の手引き ver.1(英語版・日本語版)』を2009年3月に発行し、現在は2011年秋頃の完成を目指し「ver.2」作成に当たっています。



アジアに適応した河川環境再生の手引き ver.1(2009.3)
http://www.a-rr.net/jp/info/letter/docs/ARRN_Guideline1_jap.pdf

この「手引き ver.2」作成作業の一環として、国内でこれまで発行された**技術指針類**※を集約整理し、「手引き ver.1」内で示した『良好な河川環境を再生するための方策』の分類に即して一覧表を作成し公開しました。

※「技術指針類」のイメージ
 河川・流域再生に関わる課題解決に役立つ技術や方法論が順に示され、ユーザーを解決へ導く類の指針類

河川・流域再生に関わる既存技術指針類一覧表(日本国内)

作成者: 日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)
 更新日: 2011年3月25日(金)

年度	ARRN 技術指針 No.	名称	作成機関	発刊年	掲載区分	備考
2010年度	1-1	河川環境再生ガイドライン(技術指針)	ARRN	2009年3月	アジア・モンスーン地域	日本語版・英語版
	1-2	河川環境再生ガイドライン(技術指針) 解説	ARRN	2009年3月	アジア・モンスーン地域	日本語版
	1-3	河川環境再生ガイドライン(技術指針) 解説 補遺	ARRN	2009年3月	アジア・モンスーン地域	日本語版
	1-4	河川環境再生ガイドライン(技術指針) 解説 補遺 2	ARRN	2009年3月	アジア・モンスーン地域	日本語版
	1-5	河川環境再生ガイドライン(技術指針) 解説 補遺 3	ARRN	2009年3月	アジア・モンスーン地域	日本語版
	1-6	河川環境再生ガイドライン(技術指針) 解説 補遺 4	ARRN	2009年3月	アジア・モンスーン地域	日本語版
	1-7	河川環境再生ガイドライン(技術指針) 解説 補遺 5	ARRN	2009年3月	アジア・モンスーン地域	日本語版
	1-8	河川環境再生ガイドライン(技術指針) 解説 補遺 6	ARRN	2009年3月	アジア・モンスーン地域	日本語版
	1-9	河川環境再生ガイドライン(技術指針) 解説 補遺 7	ARRN	2009年3月	アジア・モンスーン地域	日本語版
	1-10	河川環境再生ガイドライン(技術指針) 解説 補遺 8	ARRN	2009年3月	アジア・モンスーン地域	日本語版
2009年度	2-1	河川環境再生ガイドライン(技術指針) 解説 補遺 9	ARRN	2009年3月	アジア・モンスーン地域	日本語版
	2-2	河川環境再生ガイドライン(技術指針) 解説 補遺 10	ARRN	2009年3月	アジア・モンスーン地域	日本語版
	2-3	河川環境再生ガイドライン(技術指針) 解説 補遺 11	ARRN	2009年3月	アジア・モンスーン地域	日本語版
	2-4	河川環境再生ガイドライン(技術指針) 解説 補遺 12	ARRN	2009年3月	アジア・モンスーン地域	日本語版
	2-5	河川環境再生ガイドライン(技術指針) 解説 補遺 13	ARRN	2009年3月	アジア・モンスーン地域	日本語版
	2-6	河川環境再生ガイドライン(技術指針) 解説 補遺 14	ARRN	2009年3月	アジア・モンスーン地域	日本語版
	2-7	河川環境再生ガイドライン(技術指針) 解説 補遺 15	ARRN	2009年3月	アジア・モンスーン地域	日本語版
	2-8	河川環境再生ガイドライン(技術指針) 解説 補遺 16	ARRN	2009年3月	アジア・モンスーン地域	日本語版
	2-9	河川環境再生ガイドライン(技術指針) 解説 補遺 17	ARRN	2009年3月	アジア・モンスーン地域	日本語版
	2-10	河川環境再生ガイドライン(技術指針) 解説 補遺 18	ARRN	2009年3月	アジア・モンスーン地域	日本語版

URL: <http://www.a-rr.net/jp/observe/jrnratabase/2647.html>

収集整理した既存ガイドラインの知見を「手引き ver.2」へ反映することはもちろんのこと、今後は JRRN 会員皆様より新たな技術指針類の情報を提供頂き、JRRN 事務局が本一覧表を定期的に追加更新をしながら、皆様の取り組む河川・流域再生の諸活動に活かして頂ければ幸いです。

本一覧表の更なる充実化に向け、是非とも情報提供をよろしく願います。

(JRRN 事務局 和田彰)

会議・イベント案内（2011年4月以降）

(ARRN・JRRN 主催・共催の会議・イベント)

■2011年の「JRRN 河川環境ミニ講座」を企画中

2011年に開催する「JRRN 河川環境ミニ講座」を現在企画中です。是非聞いてみたいという講師や、関心のあるテーマがございましたら、JRRN事務局までご意見をお寄せ下さい。(info@arrn.net)

※過去の開催報告はこちらから→ <http://www.a-rr.net/jp/info/letter/eventreport/>

■2011年のARRN「第8回水辺・流域再生に関わる国際フォーラム」は秋頃に東京にて開催予定

本年度8回目を迎えるARRN国際フォーラムは、2011年10月～11月頃を目標に、4年ぶりに東京を会場に開催の予定です。プログラム概要が決まり次第、皆様にお知らせします。

※過去の開催報告はこちらから→ <http://www.a-rr.net/jp/info/letter/eventreport/2326.html>

(その他の河川再生・河川環境に関する主なイベント)

■第155回 河川文化を語る会

○日時：2011年4月22日（金）18:00～20:00

○会場：厚生会館（全国土木建築健保）

○主催：(社)日本河川協会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2573.html>

■「外来魚駆除大会」in 琵琶湖

○日時：2011年4月24日（日） 10:00～15:00

○会場：草津市津田江1北湖岸緑地

○主催：琵琶湖を戻す会

<http://www.a-rr.net/jp/event/02/2639.html>

■第156回 河川文化を語る会

○日時：2011年5月28日（土） 14:30～16:30

○会場：岩国市役所・多目的ホール（山口県岩国市）

○主催：(社)日本河川協会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2630.html>

■2011年度河川技術に関するシンポジウム

○日時：2011年7月23日（土）～24日（日）

○会場：東京大学農学部弥生講堂

○主催：(社)土木学会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2649.html>

■2011年度川に学ぶ体験活動全国大会 in 鶴見川流域

○日時：2011年9月17日（土）～19日（月）

○会場：慶應義塾大学 日吉キャンパス等

○主催：川に学ぶ体験活動全国大会 in 鶴見川流域実行委員会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2574.html>

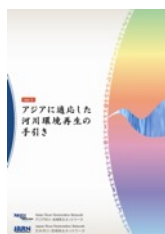
■皆様からのイベント情報提供をお待ちしています！

全国で河川再生に向けた様々な行事が開催されています。ローカル情報のPRや共有を目的に、皆様からの情報提供をお待ちしております。(JRRN事務局)

冊子・ビデオ等の紹介

■ アジアに適応した河川環境再生の手引き ver.1 (2009.3 発刊)

- ・ 発行：アジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN)
- ・ 価格： 無 料

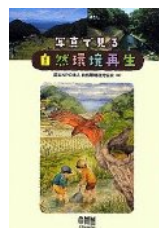


ARRN が今後作成を目指す「アジアにおける河川再生技術指針」の入門編として、非専門家の方々にも河川再生の意義やアプローチを理解して頂くことを目的に、写真や図を主体に平易な解説文を添えて作成致したものです。

本手引きをご希望される方は、「(財)リバーフロント整備センター企画グループ」までご連絡ください。送料のみご負担いただいた上で、無料で提供致します。
電話：03-6228-3862 / Fax：03-3523-0640

■ 写真で見る 自然環境再生 (2011.1 発刊)

- ・ 編集：認定NPO法人自然環境復元協会
- ・ 出版社：オーム社
- ・ 発行年月：2011年1月
- ・ 価格： ¥ 2,835 円 (税込)
- ・ ISBN：978-4274209772



北海道から九州までの日本を代表する自然再生・復元の取組について、写真や図を豊富に用いながら解説されています。

自然環境復元協会 (NAREC) ホームページ内のチラシで申し込むと、10%割引で購入できます。

URL: <http://www.narec.or.jp/>

会員募集中

■ JRRN の登録資格 (団体・個人)

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。
市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川環境の整備・改善に携わるすべての方々のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

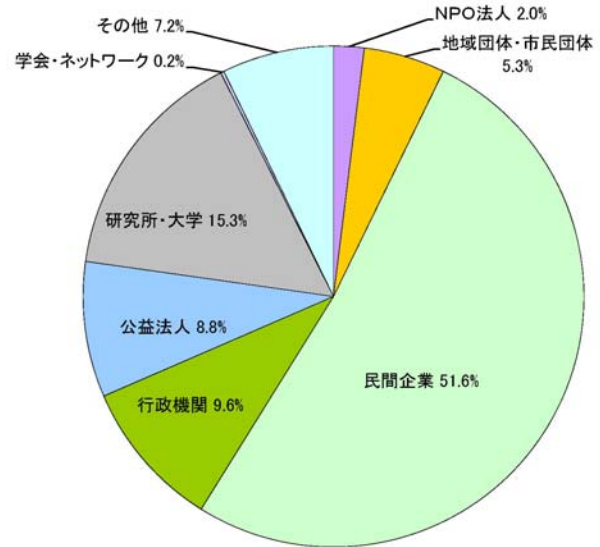
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川環境に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週に1回～2回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/info/member.html>



2011年3月31日時点の個人会員構成
(個人会員数：481名、団体会員数：30団体)

JRRN 会員特典一覧表(団体会員・個人会員)

JRRNが提供するサービス		JRRN 団体会員	JRRN 個人会員	非会員 (一般の方)
1	ホームページへのアクセス及び各記事へのコメント入力 ^{※1}	◎	◎	◎
2	ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ^{※2}	◎	◎	◎
3	ニュースメール(週2回)の配信 ^{※3}	◎	◎	×
4	Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ^{※3}	◎	◎	×
5	JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ^{※4}	◎	◎	×
6	国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ^{※5}	◎	◎	×
7	ホームページ「最近の話題・ニュース」及びニュースメール「会員提供情報」欄で団体が関わる行事や出版、技術や製品等の案内の掲載 ^{※6}	◎	△ ^{※7}	×
8	ホームページ「会員登録」「人・組織のつながり」欄及び年次報告書内で団体名の掲載	◎	×	×
9	ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ^{※8}	◎	×	×
10	JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ^{※9}	◎	×	×

【発行・問合せ先】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局
財団法人リバーフロント整備センター 内
〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 新川中央ビル7階
Tel:03-6228-3862 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net URL: <http://www.a-rr.net/jp/>

※JRRN 事務局は、「アジア河川・流域再生ネットワーク構築と活用に関する共同研究」の一環として、(財)リバーフロント整備センターと(株)建設技術研究所が運営を担っています。